

# 林 務 課



生命・財産を保全する治山事業【喬木村】  
(適材適所で木材活用)



やっと通れた虫川新野峠線【天龍村】  
(林道施設災害復旧事業)



主伐・再造林現場【天龍村】

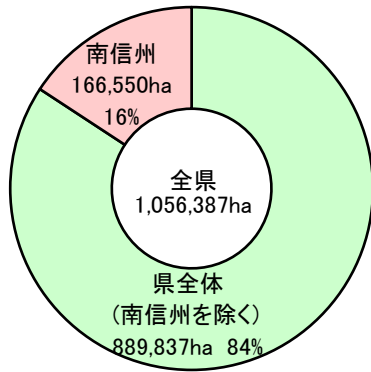


植栽現場【天龍村】

1 森林の概況

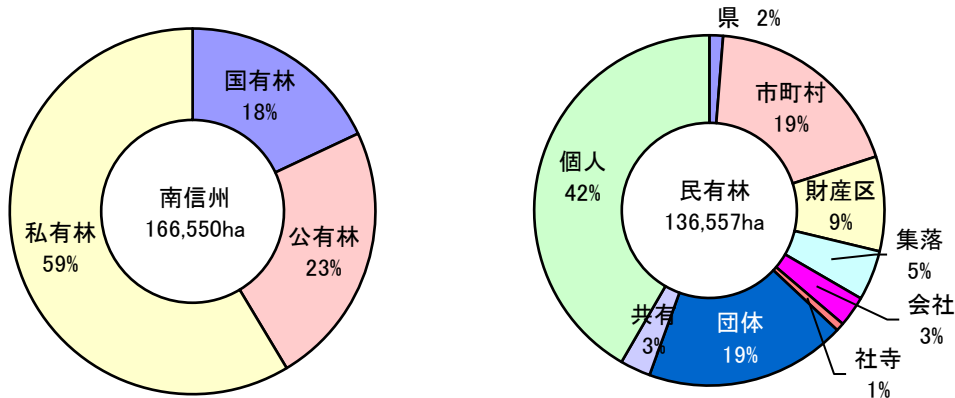
(1) 森林面積

管内の森林面積は166,550haで、長野県の全森林面積の16%を占め、森林率86%は県平均の78%を大きく上回っています。



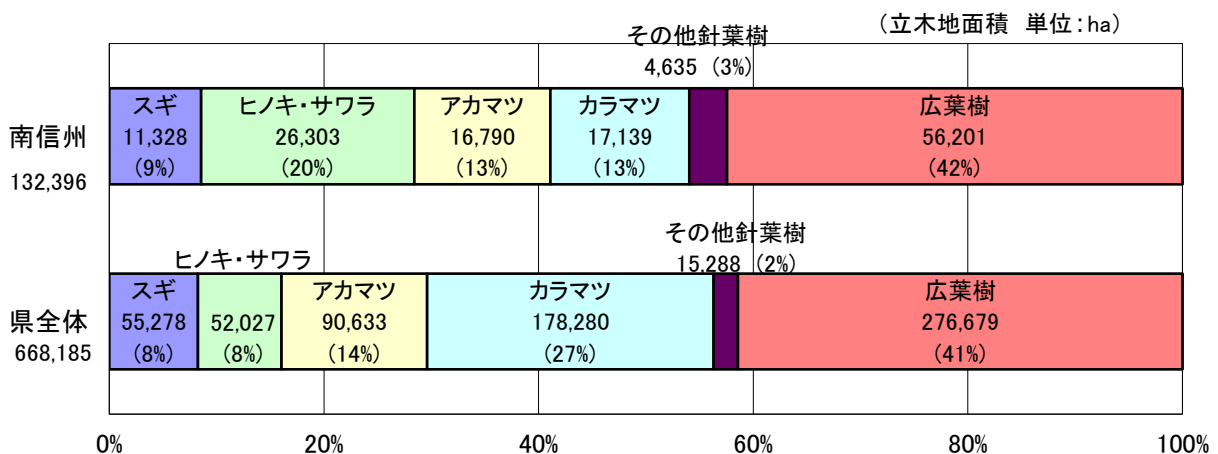
(2) 森林の所有形態

管内の森林は18%が国有林、82%を民有林が占めています。民有林のうち個人所有林が最も多く42%を占め、以下団体所有林、市町村所有林の順となっています。



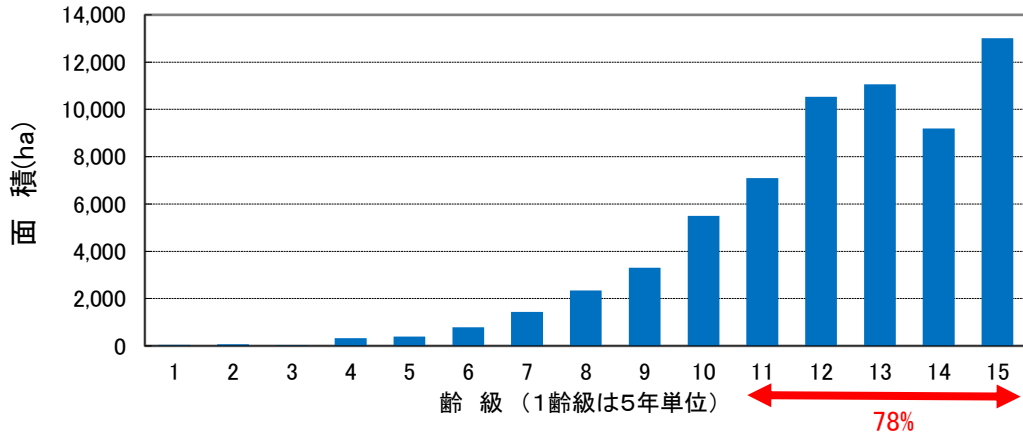
(3) 民有林の樹種別面積

管内の民有林の人工林率は48%で、県全体の民有林の人工林率49%とほぼ同じです。樹種別構成では、県全体に比べヒノキの割合が高くカラマツが低くなっています。



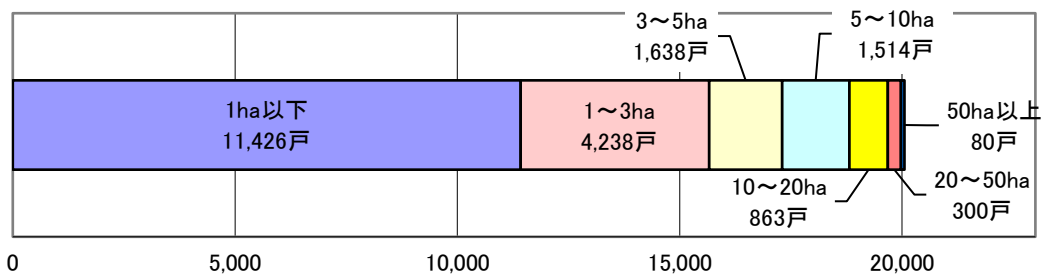
(4) 人工林の齢級構成

管内の人工林は65,136haで、そのうち51年生以上（11齢級以上）が78%を占め、利用可能な森林が増えています。このため、これまでの搬出間伐を主とした森林整備に加え、地形等の条件が揃った場所では、計画的な主伐・再造林を進める必要があります。



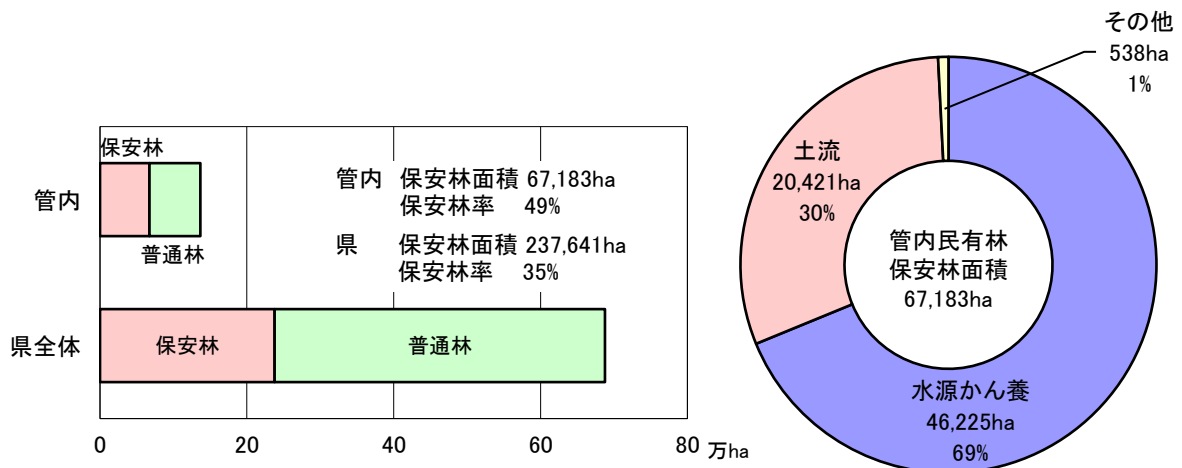
(5) 森林所有規模別の林家数

管内の森林を所有する個人有林の林家数は20,059戸で、1ha以下の林家が半数以上を占めるなど零細な林家が多い状況にあります。



(6) 保安林の整備率(指定状況)

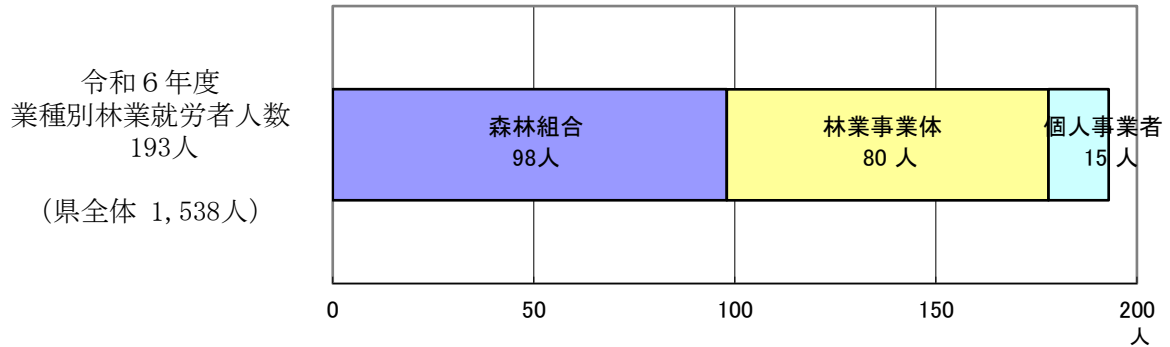
管内の民有林の保安林率は49%で、県全体の35%に比べて高くなっています。



2 林業の現況

(1) 林業従事者数(主に造林又は素材生産に従事する者)

管内の林業従事者数は193人で、内訳は森林組合、森林組合を除く林業事業体、個人事業者、建設業の順となっています。県では新規就労者確保のため、雇用対策や技術向上のための新規補助事業や、補助事業の拡充等を実施し、林業従事者の確保と育成に努めます。



(2) 高性能林業機械の保有状況

管内では、森林組合や林業事業体が令和6年度末で計68台の高性能林業機械※を保有しており、効率的な素材生産に取り組んでいます。

※高性能林業機械：複数の作業を一つの作業機で行えるようにした機械の総称



種類	保有台数	※うち 所有台数	備考
プロセッサ	20	4	材の枝払い・玉切り
スイングヤーダ	17	6	集材(支柱：重機アーム)
ハーベスタ	3	2	伐倒・枝払い・玉切り・集積
タワーヤーダ	7	1	集材(支柱タワー装備)
フォワーダ	21	6	集材(グラップル付き、自走式)
計	68	19	※所有台数はリース・レンタルを除いた純保有



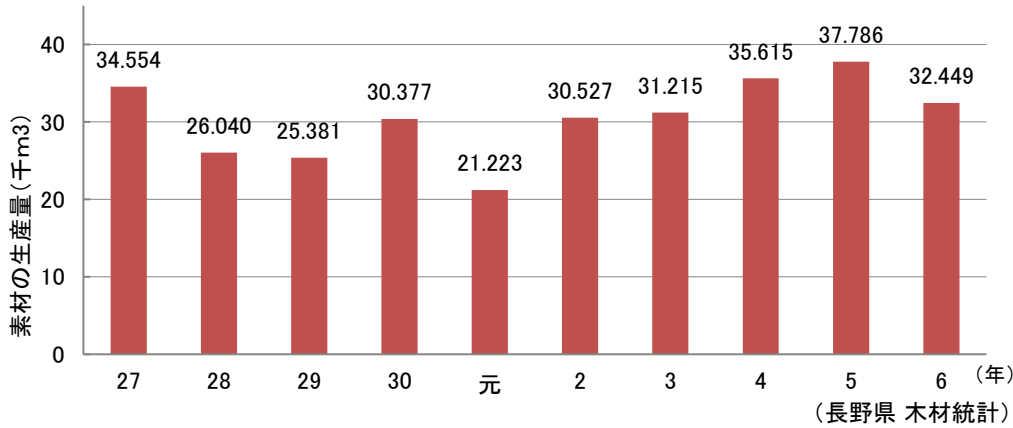
プロセッサ



フォワーダ

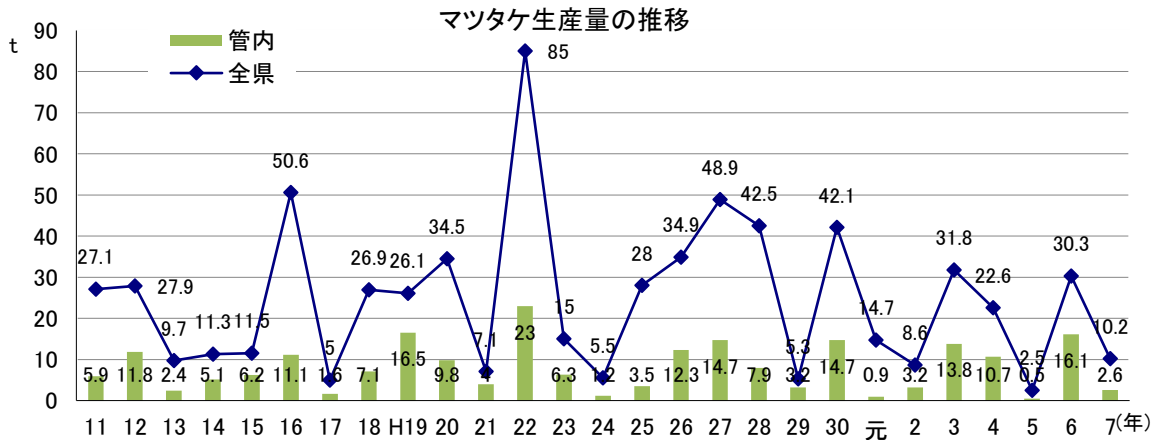
(3) 素材生産量の推移

素材生産量は、令和元年に2万1千m<sup>3</sup>まで落ち込みましたが、小規模な主伐や国有林の増加により、令和2年以降は回復し、近年は3万5千m<sup>3</sup>前後で推移しています。  
 資源の成熟に伴い利用期を迎えた森林が増加していることから、林内路網や高性能林業機械の整備、架線集材機の導入等により地域の状況を勘案のうえ主伐・再造林を促し素材生産量の増加と森林資源の齢級の平準化を図ります。



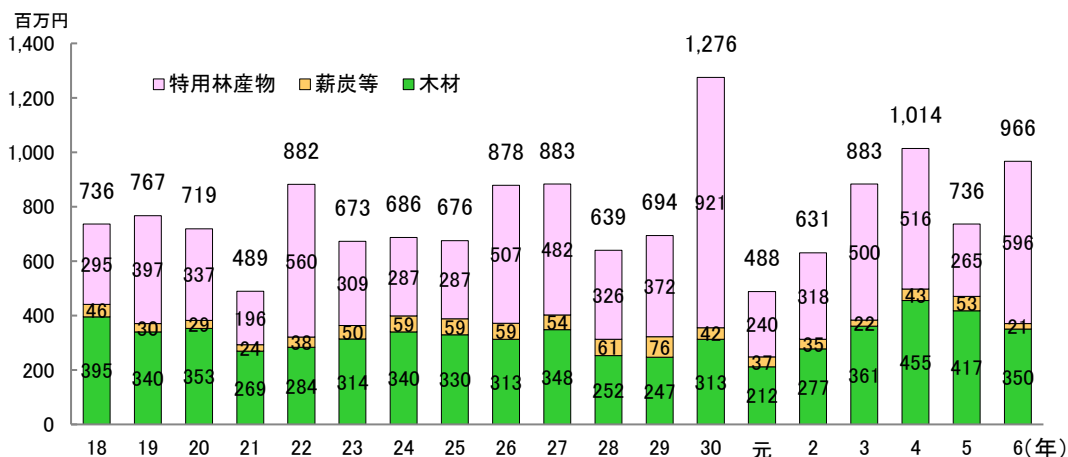
(4) 特用林産物の生産

きのこや山菜などの特用林産物の生産は、地域の振興に大きく寄与しています。南信州地域は県内有数のまつたけ産地です。令和7年は気候条件に恵まれず、全国的にも不作年であり、南信州地域でも不作年となりました。



(5) 林業生産額

令和6年の林業生産額は約9.7億円です。主なものはマツタケやシイタケなどの特用林産物と木材です。

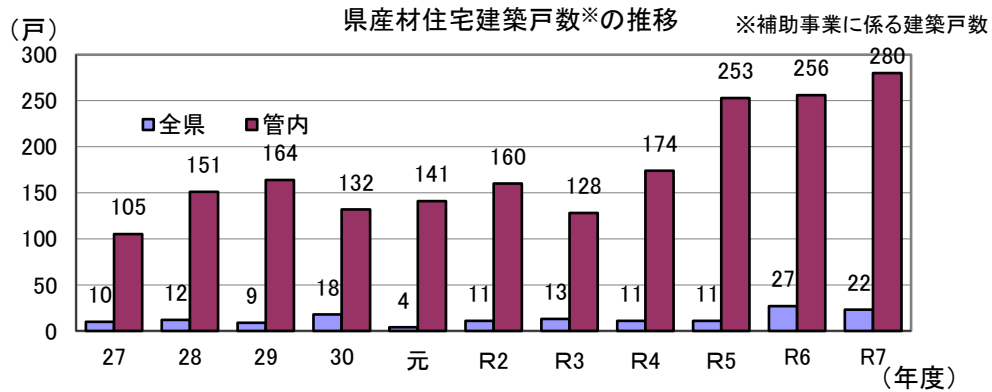


### 3 木材の利用

#### (1) 住宅や公共施設への木材利用

住宅への木材利用を進めるため、県（建設部）では「信州健康ゼロエネ住宅助成金」により県産材住宅への助成を行っています。管内における県産材住宅の建築戸数は、令和7年度は22棟でした。

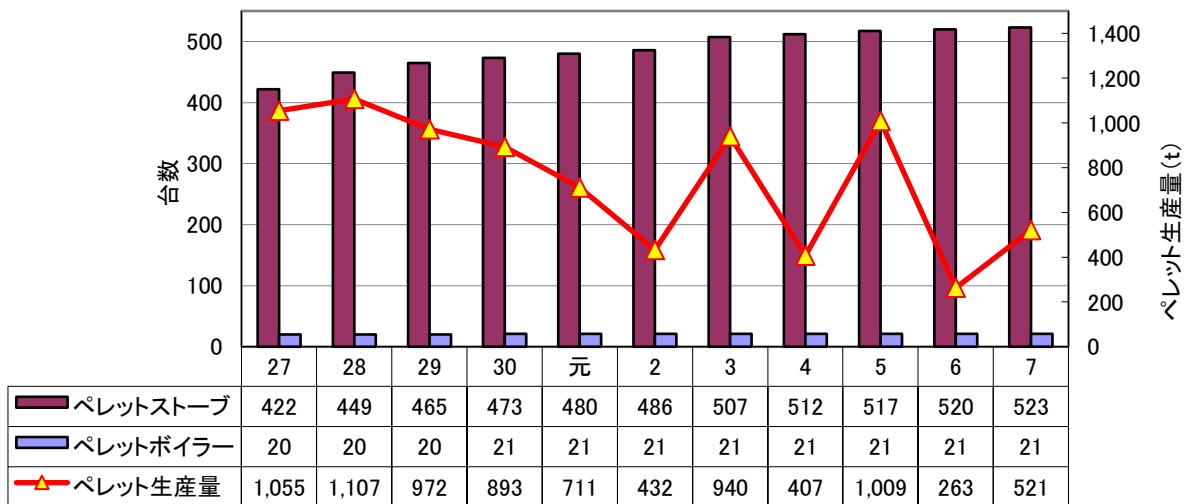
公共施設については、令和6年度に約217m<sup>3</sup>の県産材が利用されました。



#### (2) 木質バイオマスエネルギー利用

製材利用等に適さない未利用木質資源を活用するため、個人宅や公共施設のペレットストーブ、ボイラーの導入を促進するなど、管内の製造施設において生産されている木質ペレット等の木質バイオマスエネルギー利用を推進しています。

管内のペレットストーブ・ボイラー累計台数及びペレット生産量の推移



#### (3) 地域材の利用促進

##### ・中核的製材加工施設の整備

飯伊森林組合では、共同製材施設「ほうりん」で柱材を中心に製材しています。また、プレカット加工施設では、地域の製材・加工事業者と連携して地域材の利用を進めています。

##### ・森林認証の取得

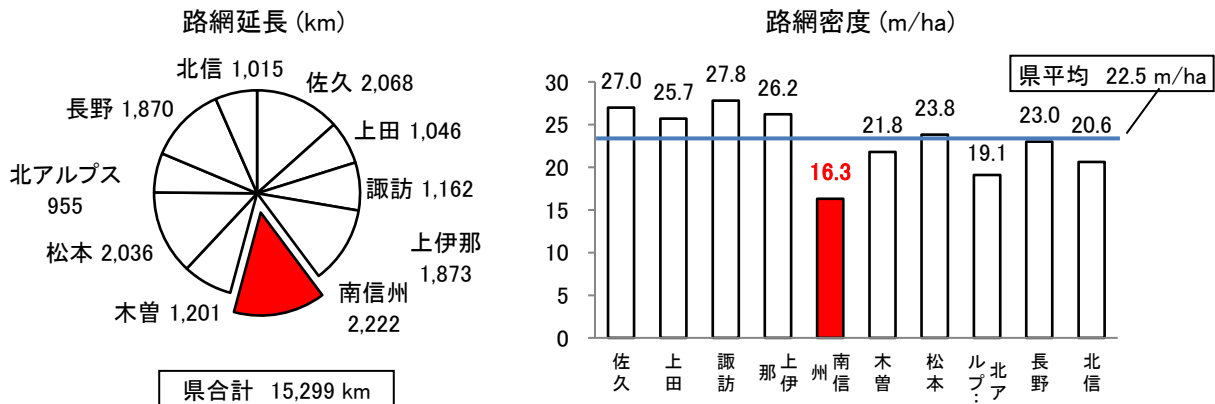
森林の適切な管理と持続可能な経営を行い、生産された木材・木製品を証明して供給するため、根羽村SFM森林認証協議会と南信州森林認証協議会ではFM認証を、飯伊森林組合と根羽村森林組合はCoC認証を取得しています。

根羽村（スギ）と天龍村（ヒノキ）と川上村（カラマツ）の認証材が、東京オリンピック・パラリンピックの選手村に使用されました。その後、返却された木材はレガシーを引き継ぐ製品に加工して村役場、体育館等に設置されています。

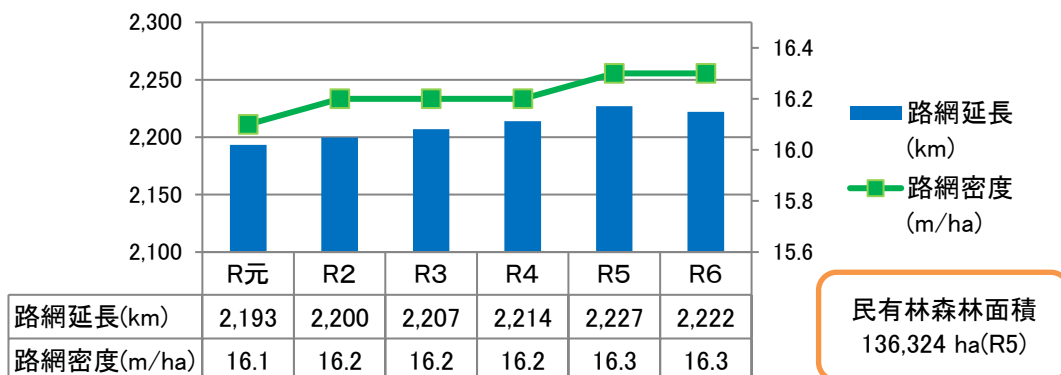
4 林道等路網の現況と整備計画

管内の林内道路（公道、林道及び作業道）の延長は2,222kmで県下1位を誇りますが、急峻な林地面積が多く、路網密度は16.3m/haと、県平均密度の22.5m/haに対し低い状況となっています。このうち林道は256路線 717kmであり、高密度路網への整備を進めてまいりました。今後の路網整備にあたっては、長野県森林づくり指針に基づき、持続的な木材供給と生産性向上及び、災害に強い路網を目指すとともに、県民が森林の恩恵を享受するための森林サービス産業等の基盤や生活道路そして災害迂回路としても寄与していることから「強靱化・長寿命化」にも取り組んでいます。

(1) 地域振興局別 林内道路の状況（令和6年度末）



(2) 林内道路網延長及び密度の推移（南信州管内）



(3) 事業別林道事業費（南信州管内）

(単位：千円)

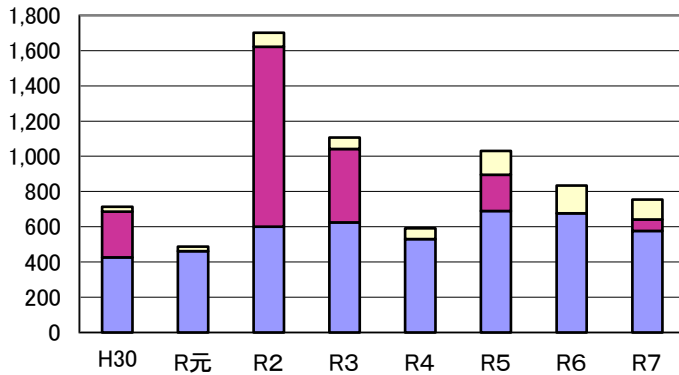
		R5実績	R6実績	R7実績 (6補正含)	R8当初 (7補正含)
開設	事業費	158,630	108,400	172,700	133,400
	箇所数	13	14	9	8
改良・舗装	事業費	269,270	356,200	209,180	166,400
	箇所数	67	162	93	25
点検補修・橋梁改良等	事業費	48,190	74,480	209,180	303,260
	箇所数	67	162	93	25
森林整備に直結する作業道	事業費	10,439	31,614	15,500	0
合計	事業費	486,529	570,694	606,560	603,060

5 治山事業の現況

(1) 治山事業の実施状況

荒廃した森林や溪流の整備と、地域住民の安全と安心な生活を守るため、治山事業を実施しています。

治山事業費の推移 (単位：百万円)



年度区分	一般公共	災害	県単	計
H30	427	259	27	713
R元	461	0	27	488
R2	600	1021	80	1,701
R3	625	417	65	1,107
R4	530	0	61	591
R5	689	207	135	1,031
R6	677	0	158	835
R7	577	64	114	755

【令和6年度県単治山事業第5号工事 喬木村 寺の前】



(2) 山地災害危険地

管内には多くの山地災害危険地があり、今後も計画的に整備を進める必要があります。

南信州地域振興局管内における山地災害危険地 種類別・市町村別箇所数 (単位：箇所)

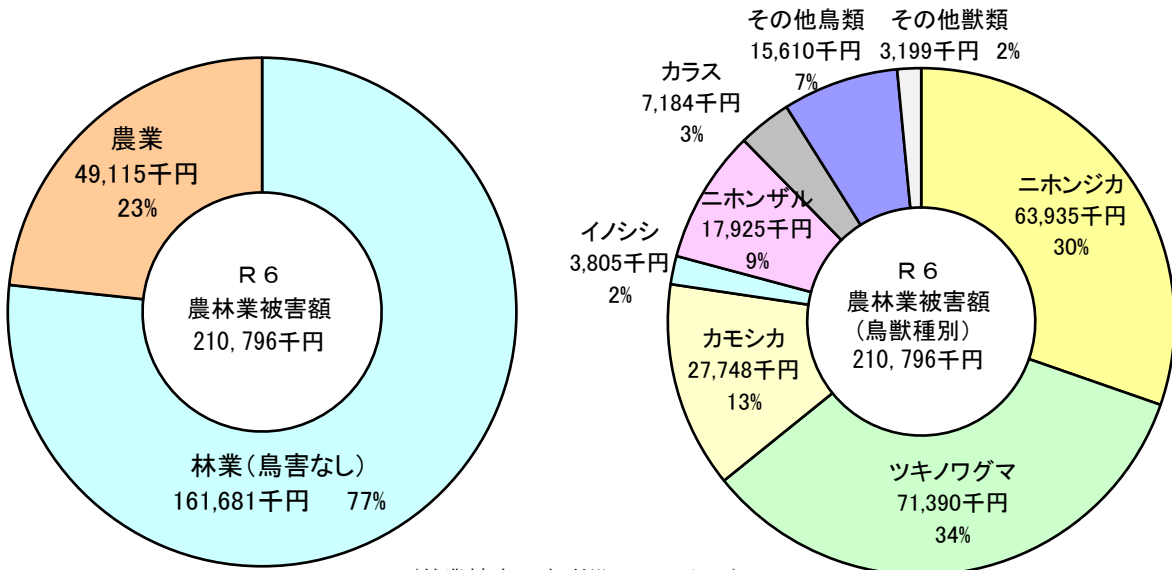
種別	山腹崩壊危険地区	崩壊土砂危険地区	地すべり危険地区	計	備考
飯田市	264	231	13	508	
松川町	35	43		78	
高森町	19	28		47	
阿南町	62	80	3	145	
阿智村	46	184	3	233	
平谷村	8	25	2	35	
根羽村	21	47		68	
下條村	22	33	2	57	
売木村	15	32		47	
天龍村	54	53	7	114	
泰阜村	52	28	2	82	
喬木村	43	56	4	103	
豊丘村	81	34		115	
大鹿村	—	—	—	—	
計	722ヶ所	874ヶ所	36ヶ所	1,632ヶ所	全県比 22%

( ※ 直轄治山事業地は除く )

6 野生鳥獣害対策

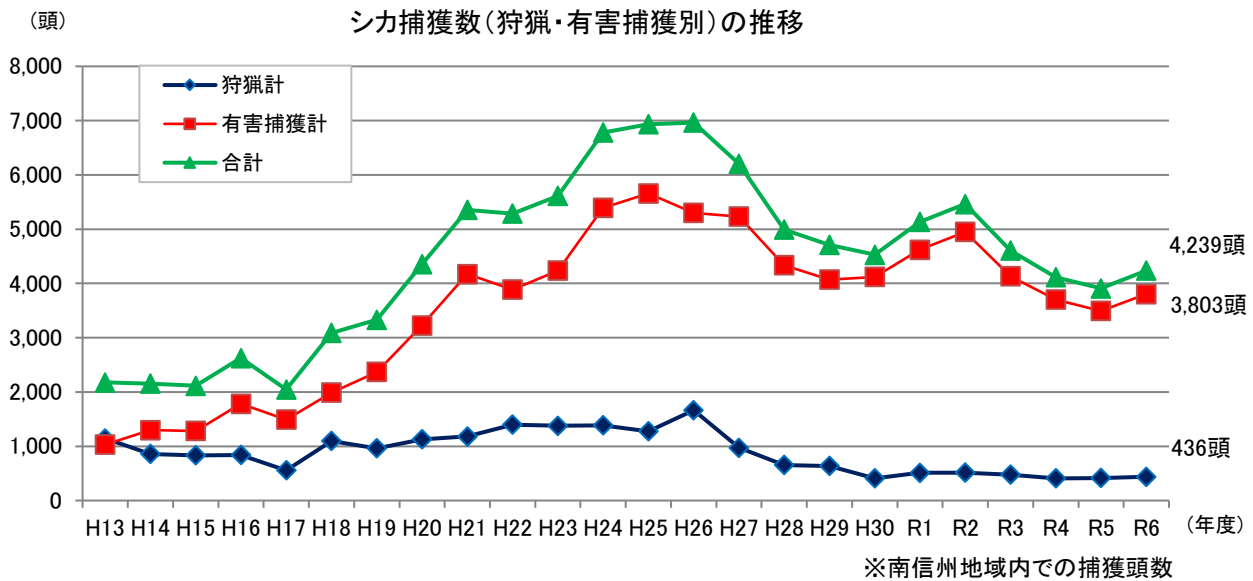
(1) 野生鳥獣による被害

管内の野生鳥獣による令和6年度の農林業被害総額は、約2億1千万円で令和5年度よりも約740万円増加しています。被害額の内訳は林業が約1億6千万円となっています。被害状況としてはニホンジカ、ツキノワグマによる被害が過半数を占めています。



(2) 野生鳥獣の捕獲状況

捕獲や防除など野生鳥獣被害対策を関係部所と連携して進めています。特に、被害の大半を占めるニホンジカについては、猟友会などの協力を得ながら捕獲を進めています。令和6年度には捕獲実績が4,239頭と、前年から330頭捕獲数が増加しました。



(3) 野生鳥獣の食肉加工処理

捕獲されたニホンジカの一部はジビエとして利用されていますが、利用割合(頭数)は、県全体で2割程度にとどまっています。

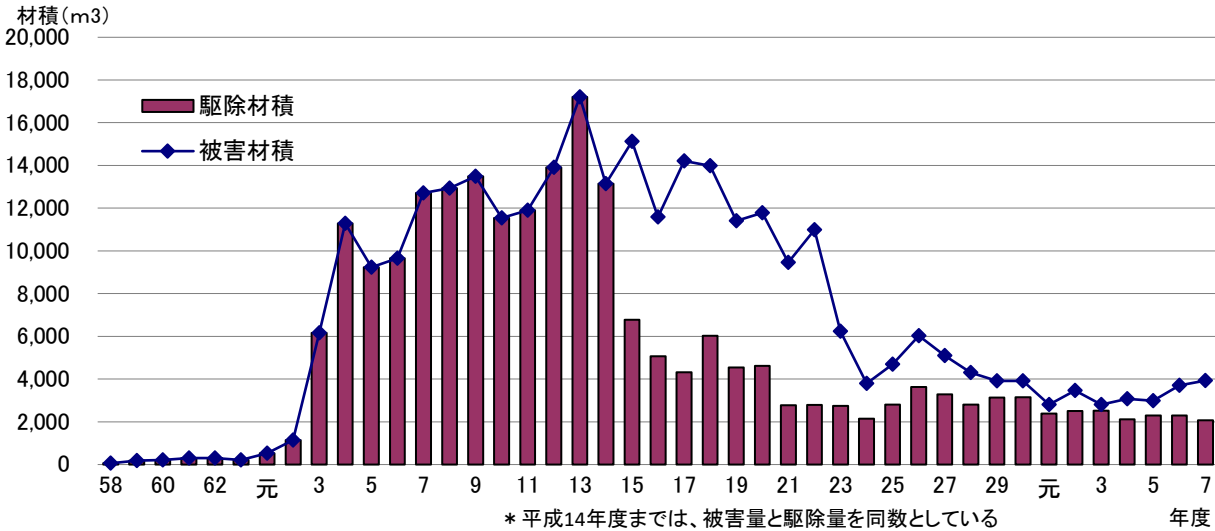
捕獲したシカを有効に活用すべくジビエの振興を進めており、管内では7箇所の食肉加工処理施設がジビエの生産を行っています。

管内	県全体
7	33

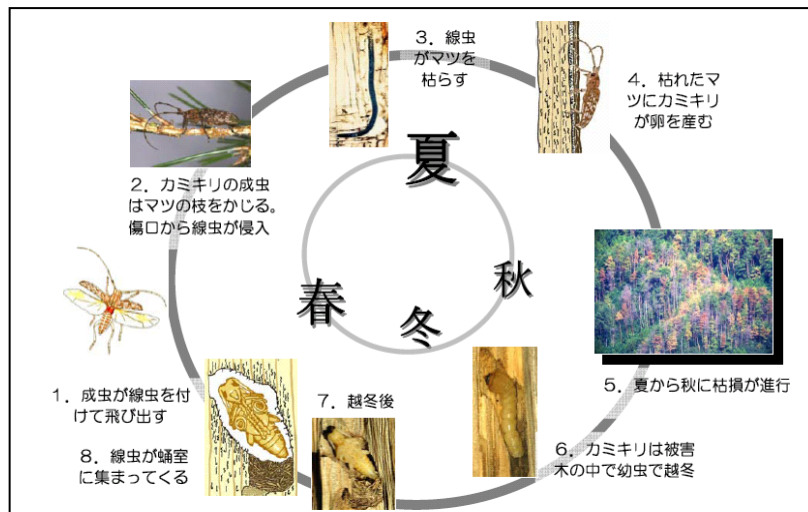
7 松くい虫被害対策

(1) 松くい虫被害量

管内の松くい虫被害は昭和58年に発生し急激に増大しましたが、平成13年度をピークに被害量は減少傾向となっています。令和7年度の被害量は3,932m<sup>3</sup>、駆除材積は2,066m<sup>3</sup>で被害量が微増傾向です。



松くい虫被害発生メカニズム



(2) 松くい虫被害対策

松くい虫被害対策として、薬剤の空中散布などの予防対策と、被害木の伐倒くん蒸処理などの被害対策、さらにはアカマツ以外への樹種転換などを総合的に実施しています。



くん蒸処理



地上散布



空中散布

8 森林・林業教育

管内に17団のみどりの少年団が結成され、森林・林業学習の実践が行われています。その他にも、学校や地域において森林・林業を学び体験する活動が実施されており、指導・協力を行っています。

みどりの少年団

少年団名	設立年	所在地	構成母体	構成学年
平谷みどりの少年団	S57	平谷小学校	学校	3～6年
売木みどりの少年団	S57	売木小中学校	学校	3～6年
天龍みどりの少年団	S58	天龍小学校	学校	1～6年
清内路みどりの少年団	S59	清内路小学校	学校	1～6年
阿南みどりの少年団	S63	新野小学校	学校	3～6年
上村みどりの少年団	H4	上村小学校	学校	1～6年
千代みどりの少年団	H5	千代小学校	学校	1～6年
上久堅みどりの少年団	H6	上久堅小学校	学校	4～6年
千栄みどりの少年団	H7	千栄小学校	学校	1～6年
阿智みどりの少年団	H9	阿智村	地域	小4～中1年
南信濃みどりの少年団	H10	和田小学校	学校	3～6年
喬木第二小学校みどりの少年団	H12	喬木第二小学校	学校	1～6年
浪合学校みどりの少年団	H13	浪合小学校	学校	4～6年
根羽みどりの少年団	H15	根羽学園	学校	小1～中3年
三穂小学校みどりの少年団	H19	三穂小学校	学校	5～6年
阿智第二小学校みどりの少年団	H22	阿智第二小学校	学校	1～6年
はなぶさ学園みどりの少年団	R3	飯田市	地域	小1～中3年
17団				



みどりの少年団交流集会



森林・林業教育の活動

9 その他

(1) 森林組合の状況

管内の森林組合は3組合で、県内4番目の組合員数を有する広域的な飯伊森林組合、根羽村1村を区域とし「根羽スギ」生産を進める根羽村森林組合、阿南町和合地区を区域とする和合森林組合と、それぞれに特徴を有しています。

森林組合名	区域	組合員(人)	役員(人)	専従職員(人)	組合員所有森林面積(ha)
飯伊	飯田市、下伊那郡(阿南町和合、根羽村を除く)	9,230	18	61	77,288
根羽村	根羽村	474	11	6	7,531
和合	阿南町和合	185	8	4	2,743
計		9,889	37	71	87,562

出典：森林組合調査票

(2) 森林整備業務の実施主体別受注割合

地域振興局で発注する森林整備業務には、治山事業、県営林事業等があります。以前は森林組合が中心となって森林整備業務を担っていましたが、現在は建設業や林業事業体といった様々な企業も受注しています。

